校長室だより～燦燦～ №７４１

チェアマン

2023.4.24

３月１１日（土）は、郡山にいた。男子プロバスケットボールＢリーグの試合を観戦するためである。福島ファイヤーボンズが、地元郡山に山形ワイヴァンズを迎えての２連戦である。

試合が始まる前に、様々な催し物があった。そのメインは、小柳ゆきさんの登場だった。誘っていただいた知り合いによると、こういったことは、たまにあるとのことだった。八神純子さんはよく来るそうである。ファイヤーボンズのチームカラーが紫であり、八神さんの代表曲に「パープルタウン」がある関係によるらしい。確かに、試合前に「パープルタウン」が流れていた。

では、何ゆえに小柳ゆきさんなのか。その理由はわからなかったが、一つだけ考えたのは、３月１１日だからであろう。東日本大震災から１２年である。試合は、福島県のチームが、地元のホームで行うのである。特別な試合である。小柳ゆきさんの、あの細身からは想像もできないような声量は迫力があった。

試合前には、もう一つ大きなことがあった。Ｂリーグチェアマンである島田慎二さんがあいさつをされた。全国各地でＢリーグの試合が開催されている。郡山でのこの試合は２部リーグである。にもかかわらず、チェアマンが来てあいさつをするという。チェアマンは、福島県を郡山を選んだ。それは、３月１１日だからである。

私の知り合いによると、ファイヤーボンズのユニフォームは、ホームでは紫、アウエーでは白なのだが、年に一度だけ赤いユニフォームを着るのだそうだ。それが、３月１１日である。なぜ赤なのか。たぶん、赤べこからきている。そう勝手に考えた。

島田チェアマンのあいさつがすばらしかった。もちろんノー原稿である。そこで考えた。２日後が、卒業式である。校長式辞がある。とりあえず原稿はつくってはある。だが、入学式も卒業式もノー原稿と決めている。昨年度の卒業式では、ノー原稿にした結果、ボロボロに泣いてしまい、大変なことになった。そのため、今年度は、原稿を読むことで泣くことを防ごうかと考えていた。

しかし、島田チェアマンのあいさつを聞いて、考えが変わった。やっぱりノー原稿のほうが人には伝わる。思いを新たにするきっかけをいただいたあいさつだった。島田チェアマンは若い。いや若々しい。リーダーたる者、こうでなくてはならない。

試合はというと、今日という日は、絶対に勝たなくてはいけないという気持ちがプレッシャーとなったのだろうか。何だかチグハグだった。とにかくシュートが入らない。結局負けてしまった。

試合後のある主力選手のコメントである。「福島県の皆様にとって今日という日がいかに特別か分かっています。沢山のご来場ありがとうございました。そして申し訳ない。今日という日は絶対僕たちが笑顔を作る試合をするべきだった。明日は気持ちをもっと出します。福島ファイヤーボンズに生かされた人間として。」

翌日の試合では、福島ファイヤーボンズが勝利した。これからも毎年、３月１１日はやってくる。今回は、プロバスケットボールの試合をもとに震災について考えた。今後も、何かイベントのようなものに参加することで考えていくのもいいかもしれない。震災のことは、年中、頭から離れることはない。３月１１日は、改めてより深く、じっくりと考える日である。